（施政方針を述べる広瀬市長）

平成21年度 施政方針

市政テーマ「地域を守り、地域とともに生きる」

第33回養父市議会定例会が、3月3日から26日まで開かれ、広瀬市長は平成21年度の各会計予算案を提案するにあたって施政方針を述べました。

広瀬市長は、市の将来像を描くために最も必要なこととして「元気・笑顔・思いやり」と「市民のためのまちづくり」を挙げ、市民の皆さんと一体となって市政を力強く推進する決意を述べました。

今月号では、平成21年度の施政方針（一部抜粋）と予算の概要をお知らせします。

はじめに

現在、養父市が抱える最大の課題は、財政健全化と過疎化、少子・高齢化にどのように対応し、いかに市民の福祉向上と幸せな生活を築いていくかということです。

私は佐々木初代市長、梅谷前市長の市政を継承し、市民と市議会の皆様とともに、この誇りあるわがまち「養父市」を将来にわたって守るため、養父市が抱える過疎化、少子・高齢化に起因するさまざまな課題の克服と、市内に居住するすべての人々が一体となって固い絆に結ばれたコミュニティづくりを進め、お互いが思いやり、支え合い、助け合い、笑顔と元気があふれる自立した養父市の実現に向け、的確・迅速な判断と行動を大切にしながら全力を傾注する決意です。

しかし、現在の養父市の財政状況はただちに好転するものではなく、今まで以上に行財政改革を積極的に進めながら財源の確保を図りつつ、事業効果や優先度が高い事業から順次実施していきたいと考えています。

平成21年度の一般会計予算総額は約183億円と昨年に比べて7億円削減し、合併以来5年連続で縮減していますが、引き続いて財政の緊縮化を図り、市債の繰り上げ償還に努めるなど国の認める実質公債費比率等の財政健全化指標を1年でも早くクリアできるように努めていく所存です。また、財政計画に基づいて5億6千万円を財政調整基金に積み立て、将来の財政運営に備えます。

私は市民の皆様に「元気・笑顔・思いやり」と「市民のためのまちづくり」を行うことを約束してきました。そのために、次の2つの柱により市政を担っていきたいと考えています。

まず1つ目の柱として、よりよ

い市の将来像を描くとき、養父市に最も必要なことは市民と市の元気と市民の笑顔、思いやりです。

この「元気」「笑顔」「思いやり」を培うためには、市民の皆様と行政が心を通い合わせた「市民主体のまちづくり」を行うことが必要です。そのために、梅谷前市長の市政運営のテーマであった「地域を守り、地域とともに生きる」を引き続き私の基本的な市政運営の柱とします。

もう1つの柱は、市役所の変革です。市職員のコスト感覚や仕事に対する専門性、スピーディーさなど改善すべき点は多くありますが、私の就任あいさつで市職員には意識の改革を強く求めたところであり、職員と市役所がより一層、市民の皆様に身近で役に立つ機関となるようにします。

今こそ養父市は、合併の実効を上げて底力をもった強い市となるため、市民と行政が新しく生まれ変わるための意識の改革が必要な時であります。これを2つ目の柱とします。

平成の大合併では、兵庫県下でいち早く平成16年4月に養父市が誕生して5年が経とうとしています。この節目の年に、5周年記念式典や各種事業を開催し、次の5年、10年へ向けて新たな養父市をスタートさせる所存です。

したがって、私はこの平成21年度を「まちづくり元年」と位置づけて市政運営にまい進します。皆様のご協力をお願いします。

人口3万人規模・交流人口150万人の「活力ある」まちづくりを目指します

現在養父市では、過疎化と少子・高齢化が同時に進み、集落機能の維持が困難になりつつあります。

市内の159集落のうち65歳以上が50％を超える集落が9集落、55歳以上が50％を超える集落は65集落にものぼります。このまま推移すれば5年後にはこのような集落が大半となり、集落機能の維持が困難になるだけでなく市の体力が急激に低下する恐れがありますので、当面合併時の人口3万人規模を目指すこととし、生産年齢人口の増加を図るとともに持続可能な集落づくりを進めることに全力を挙げていきます。

このため、新たな定住促進制度として高齢化率の高い地域の空家と古民家（こみんか）の買い取りや改修を行い、定住される場合にはその地域の高齢化率に応じて助成する金額の傾斜配分を行い、またU・Iターン者への交付の年齢要件等を緩和するなど新たな定住施策をスタートさせます。また、県の遊休施設である小城貯木場跡地を兵庫県から買い取り、宅地造成事業を実施し定住人口の増加に向けて取り組みます。

さらに、私自らがトップセールスを行って企業誘致を積極的に進めていきます。具体的には、市内に点在する空き公共施設等の活用を図って雇用の場の確保に努めるとともに企業誘致施策と定住促進制度等を組み合わせ、市内の定住人口増加に向けた取り組みを進めます。

養父市の最大の魅力は、雄大なスケールをもった氷ノ山・ハチ高原・妙見山・天滝などの豊かな自然です。これらの観光資源を活用し、市内に点在する温泉・観光農園・鉱石の道関連施設などとの資源のネットワーク化を図り、養父市をまるごと体験できる仕組みやメニューづくりを進め、人と物が行き交う交流人口150万人に向けた観光産業の発展に尽くします。

さらに、新たな観光の視点として人と人、人と自然、人と風景のつながりを取り戻す「共生の道」

夏は合宿や自然学校、冬はウインタースポーツで賑わう観光の拠点・ハチ高原